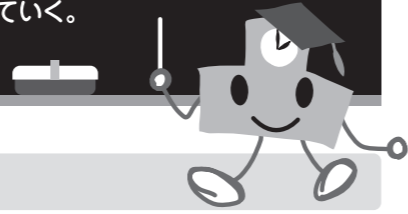


小学校の事例 清田区 清田南小学校

育ち、実をつけ、鳥が集まる。親しめる木々を植樹し、生活の中で自然への関心を育てる。

「実のなる木」の植樹で自然への関心を育む。成長するにつれて、教科と連動させた学習を検討。身近な自然について考えさせながら環境意識を高めていく。



はじめに 実のなる木々を全校で植樹

本校では環境教育として、植樹とその後の観察活動を行っている。植樹場所は校地内の「すすかけの森」。全校児童が参加して「実のなる木」の苗木を植え、数年かけて成長する姿を観察することで、自然への関心を育む計画である。苗木の費用は札幌市教育委員会が、苗床作り、廃棄、技術、植樹の手直しなどの費用は同窓会が、それぞれ一部を負担した。



実のなる木「ハスカップ」

内容 ルールを守り自然とふれあう

平成20年6月、植樹に相応しい「育てやすく、鳥が集まりそうな樹」ということで、ヤマグワ、フサスグリ、グスベリ、ニシキギ、ハスカップ、黒実のナナカマド、ブルーベリー、ビクリグミの8種類、各3本の計24本を植樹した。「植える樹はみんなのもの」を前提に、1～6年と特別支援学級がそれぞれ1種類の樹の植樹を担当し、さらに委員会で1種類を植えた。



植樹の様子

あくまで自然を育て観察することが目的で、基本的には「食べてはいけない」など約束ごとが設けられており、子供たちはそれを理解している。現在はまだ苗木の状態だが、木が育てば、秋に紅葉や拾った木の实を使って、落ち葉観察や工作を作るなど、実際に見たり触れたりしながら自然への関心を高めていくことができると考えている。

課題 苗木の成長を見守り 教科に取り入れる

「すすかけの森」に植えた樹はまだ苗木の段階で、実はまだついてきている程度。もう少し成長を見守り大切に育ててから、教科の中に取り入れて観察していく予定である。例えばヤマグワは、ただ実がなるだけでなくカイコの餌となるため、その観察が期待されている。また、北海道の果実であるハスカップ、目の健康によいとされるブルーベリー、紅葉の観察のためのニシキギなども、教科へのつながりを考慮して選ばれた木々である。今後は、これらの観察を教育課程にきちんと位置付けた取組が検討されている。



植樹された木々

そして世界では豊かな森林が減っていること、今、私たちがやるべきことを考えるように指導していきたい。

発展 身近な自然とのふれあいから 広がりのある学習へ

3年生は身近な環境についての問題を、4年生はエネルギーについての実験を行い、今使用している地下資源以外の代替エネルギーについて考える学習を検討している。そして高学年では地球規模の環境への関心を深めるために、「水」を題材として教科と関連させながら学ぶことを目指し、企業による出前授業を取り入れた。

身近なものを素材にすることで子どもに興味関心をもつよう工夫し、結果が目に見えて分かるもの、実感できるものなど、実践型の取組に力を入れ、自分たちの生活との関わりについて理解させていきたいと考えている。



地球温暖化再現の実験



実験装置

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

自分たちの身近な題材から視野を広げ、最終的にはまた自分たちの生活へ戻って日常的な実践に結びつけられることが望ましいと思います。地球は危機的な状況にあり、環境を考えずにはいられない時代ですので、子供たちでもできることに気付かせ、継続していくのが理想です。